

学びに自分の意志をもつ子

重点 つなぐ学び

札幌市立緑丘小学校 第24回教育実践研究会

第Ⅰ期 9月18日(金)

社会	3-3	平 侑真	「工場ではたらく人と仕事」
	4-5	谷川 充	「地震にそなえるまちづくり」
	5-2	奥泉 峻	「日本の工業生産と今と未来」
算数	1-3	池野 翔太	「たしざん」
	4-2	佐野 楓河	「垂直、平行と四角形」
	2-1	三浦 聡一郎	「三角形と四角形」
図画工作	1-2	渡辺 恵美子	「スルスルビューン」
	5-1	北野 信次郎	「水から発見 ここきれい！」
体育	4-1	清橋 隆之介	「スペーストライアングルゲーム」
	6-1	齋藤 未来	「リズム高跳び～みどりっ子スターズ～」
外国語	4-3	和田 誉	「Unit7 What do you want?」
	専科(6年)	太田 麻子	「Unit5 Where is it from?」
道徳	2-2	高橋 周	「おかあさんとのやくそく」
	4-4	酒井 利来	「お母さんのせいきゅう書」
	5-3	中野 梨紗子	「セルフジャッジ」

第Ⅱ期 11月6日(金)

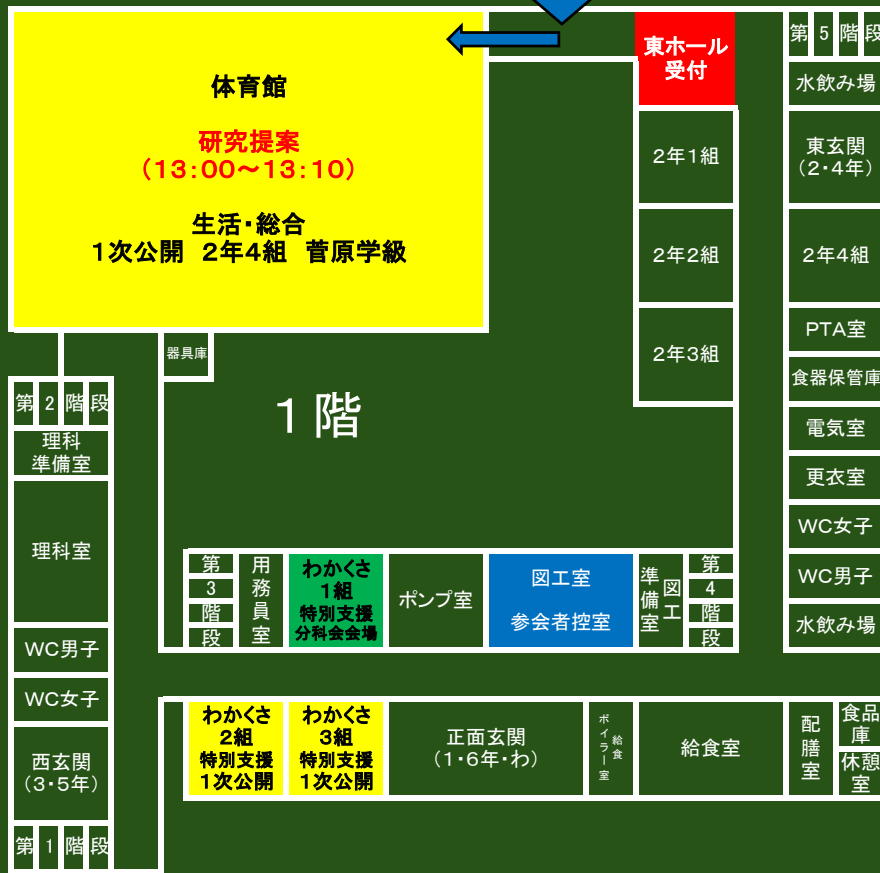
国語	5-4	羅津 日向子	「固有種が教えてくれること」
	6-4	坂野 由美子	「『考える』とは」
	5-5	中島 幹太	「想像力のスイッチを入れよう」
理科	3-1	池田 拓樹	「じしゃくのせいしつ」
	3-4	磯川 祐人	「じしゃくのせいしつ」
生活・総合	2-4	菅原 裕子	「作ってためして」
	6-3	森下 恭時	「Dreams come true.」
音楽	1-1	二木 愛花	「せんりつでよびかけあおう」
	2-3	工藤 壮生	「いろいろながっきの音をさがそう」
特別活動	3-2	黒田 健太	「3-2チャレンジ集会をしよう」
	6-2	千葉 朋輝	「『響』学習発表会をつくろう！」
特別支援	わかくさ	木村 裕昭、石川 富美、森 達也、 篠原 唯、岩井 千波、奥山 陽子	生活単元学習/自立活動「わかくさまつりをしよう！」



グラウンド

入口

札幌市立緑丘小学校 第24回教育実践研究会 Ⅱ期 会場図



・別紙もしくは下のQRコードから、研究会のアンケートの御協力をよろしくお願いいたします。



10年前・10年後

校長 三戸部 文彦

第24回緑丘小学校教育実践研究会に御来校いただき、感謝申し上げます。

本校教職員は、この日に向けて懸命に授業づくりに励んできました。中には、研究会で授業を公開するのはこれが初めて、という教職員も複数ありますが、彼らが皆同じ土俵に立ち、自分の考えをもとに、子どもたちと共に授業をつくり、見ていただいて御批正を頂戴すること、その全ての過程が教職員一人一人の確かな成長につながるものと思います。そして、それが緑丘の子どもたちの豊かで確かな「深い学び」につながるものと願っております。忌憚のない御指導をよろしくお願いいたします。

さて、現在、次期学習指導要領改訂に向けて検討がなされていると耳にします。

思い起こせば10年ほど前、前回の要領改訂時期にも、実にさまざまなキーワードが私たちの耳に入ってきました。「コミュニティ・スクール」や「チーム学校」といった大きな枠組みのものから、教育課程編成や実施、評価等、内容そのものに関わる「カリキュラムマネジメント」「道德の教科化」「外国語活動」。一コマの授業の在り方や子どもの学びのプロセスや様相にまで踏み込んだ、「アクティブ・ラーニング」など、多岐にわたっていました。

そして今、それらの流れを汲む文言とも取れる「『主体的・対話的で深い学び』の実装」(Excellence)と、まさに現代の学校の状況を象徴する「多様性の包摂」(Equity)、そして「実現可能性の確保」(Feasibility)という三つの大きな柱と、これらに付随する「調整授業時数」「余白」などといった要素が、新たな言葉として学校現場に徐々に届いています。

今回は、視覚的にも整理された図式も伴った提示で、以前よりは身構えることも少ない印象ですし、比べてみると一貫性のある部分と、新たに加わってきた課題という捉えができる分、混乱はやや少ないようですが、私にとっては、変革についていくことに必死、というのが正直なところです。

一方で、これまで進められてきた小学校研究の在り方について、自分の拙い経験も含めてふり返ると、次期要領と共に歩む今後の5年先、10年先を見据えたときにはそれこそ大きな転換期に入っていると感じます。

教職員不足の問題や、教職員の働き方改革が進む中で、これまで通りの、時間と費用をかけた研究推進は難しくなってきました。各学校で研究会の実施に負担感を感じる部分は、全くないとは言えないですし、実際に、夜遅くまで指導案検討に取り組む姿もあります。市内では、研究会を開催しても、なかなか教室を空けられないために参加者が少なくなってきました。開催側は参加者確保のために「指定参加者」という仕組みをつくり迎え入れますが、指定された側の学校では、補欠体制を組むことに困難さが生じています。校内の授業研においても、安全管理の面も含めて見守り体制が必要になり、いわゆる担任外教諭が見回りをしたり、短時間ずつ交代で授業を参観したり、という現状をよく耳にします。

このような潮流の中でも、授業をより良いものへと変えていくための研鑽は必要です。しかし、「昔はできていた。」と嘆くばかりでは変わりません。今、改めて、業務の精選と授業改善の営みを両立させる新たな方策が必要と感じます。緑丘小学校の研究推進のこれまでの歩みと、本日の研究会までの営みに心からの敬意をもちつつ、今回の研究会を礎として、未来を見据えていきたいと考えます。まさに『実現可能性の確保』、持続可能な小学校研究の在り方を追求し、教師と子どもの双方に「余白」を創出することで、子どもにとっての豊かな学びと、教師の確かな成長に繋げていく。その転換の方向性を、今後皆様と共に考えていくための、10年後を見据えた『一手』としての研究会となれば、と願っております。



札幌市立緑丘小学校 学校経営の重点

あこがれとありがとうでつながる学校

人に優しく 自分を磨く みどりっ子

「何のために★誰のために」

～聞こえる子どもの声、聞こえない子どもの声を聴く学校～

緑丘の
こころ
づくり

心のつながりを
大切にする子

同質性から多様
性を尊重する心

緑丘の
まなび
づくり

学びに自分の
意志をもつ子

誰にも自己決定
の場がある授業

緑丘の
からだ
づくり

健康を意識し
自ら行動する子

仲間・時間・
空間の創出

◆ 「何のために」から始まる教育活動

◆ 一人一人の自立を促す しなやかな教育課程

◆ 自ら進んで「創る」自治的な取組

◆ 小中9年間の一貫した教育の推進（啓明中学校区）



緑丘の研究



わたくしたちの よい学校

あこがれとありがとうでつながる みどりっ子

学校教育目標

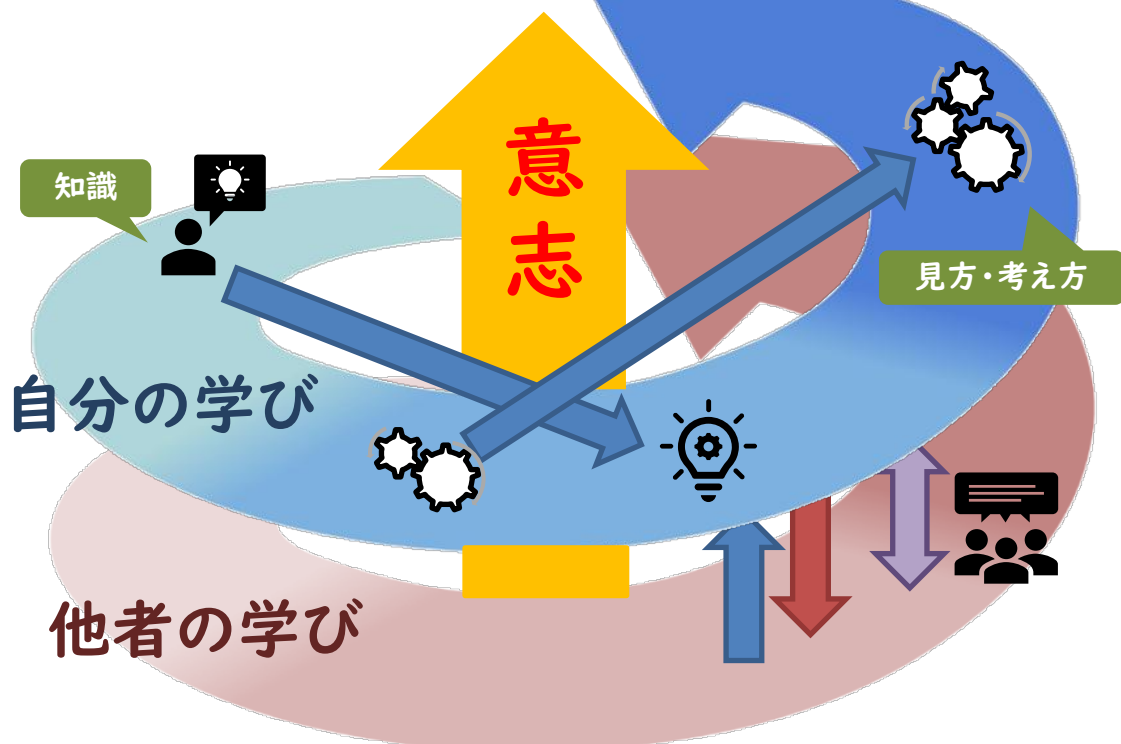
強い子・やさしい子・考える子・きまりよい子

研究主題 **学びに自分の意志をもつ子**

研究の重点

つなぐ学び

資質・能力の育成



1. 自らの学びをつなぐ

見通し⇨行動⇨結果

獲得した知識・生活経験

⇨様々な場面

学んだ学び方⇨新たな課題

働かせた見方・考え方⇨

次に働かせる見方・考え方

2. 他者の学びを 自らの学びにつなぐ

自分⇨他者

目的をもって他者とつながる

他者から学びとることを選択する

他者との学びを通して、

新たな価値を見出す

研究主題

学びに自分の意志をもつ子

「意志」とは

—「学びに自分の意志をもつ子」の育成に向けて—

本校では、令和4年度より継続して、「学びに自分の意志をもつ子」の育成を研究主題として掲げ、研究を進めてきました。3年研究の最終年となる令和8年度は、これまで積み重ねてきた実践を基に、子どもがどのような場面で学びに向かう意志を発揮し、また、その意志をもち続けることができるのかについて、子どもの姿での具現化を目指しながら研究を深めてきました。

今年度は、研究会において他校の先生方にも本校の研究を御覧いただくことを踏まえ、研究の考え方や実践の意図をより明確にしながら、「学びに自分の意志をもつ子」とはどのような姿なのか、また、その姿を支える教師の手立てとは何かについて、全校で追究して参ります。

1. 研究の出発点—教室と職員室の接続

研究の根幹にあるのが、「教室と職員室はつながっている」という考えです。この言葉は、単なる比喻ではなく、実際の教育実践において示唆的な意味をもっています。教室で展開される授業と、職員室で交わされる教師同士の対話や共有は、分断されたものではなく、相互に影響し合い、子どもたちの学びの質を規定するものであると考えます。授業研究や教材研究、日常の指導についての相談やちょっとした立ち話というような、教師同士の職員室での様々な協働が積み重なることで、授業改善の視点が共有され、子どもの学びを支える土台になっていきます。

本校では研究を、特定の授業技術を習得する場としてだけではなく、教師自身が自らの教科観や授業観、指導観、子ども観を問い直しながら成長していく過程として捉えています。教師自身が学び続ける姿勢をもつことが、子どもの学びに向かう意志を支えることにつながると考えるからです。今年度も、職員室が「授業について語り合う場所」であり続けることを大切にしていきます。

2. 研究主題の核心—「意志」をもつとは何か

「学びに自分の意志をもつ子」という表現に込められた「意志」とは、

**自ら何かを「～したい」と望み、
その実現に向けて行動しようとする内面的な働き**

と位置付けています。

この「～したい」という内発的な動機は、単なる感情（好き・嫌い）とは異なり、目的意識を伴って行動に向かおうとする意図を含んでいます。そのため、「意志」は、「願望」や「希望」をもつだけではなく、そこから実際の行動を方向付けるものだと考えます。

研究の重点 つなぐ学び

これまでの研究を通して見えてきたことは、緑丘小の子どもたちは決して「意志をもっていない」わけではないということです。むしろ、一人一人が「～したい」「やってみたい」という思いを強くもっており、日常の活動においてはそのエネルギーが表出する場面も少なくありません。問題は、それが「学び」へと向かうかどうか。そして、それが「学び続ける意志」として持続するかどうかだと考えます。

また、昨年度の研究や子どもの実態からは、「学びたい」という意欲はある一方で、「自分はできる」「自分の考えには価値がある」という自信との間にギャップがあることも見えてきました。そのため、今年度は、単に学びに向かう意志を引き出すだけでなく、その意志を支える「自信」や「学びの価値の自覚」にも着目して授業づくりを進めています。

子どもが、「前もこの方法でうまくいった」「友達のことを聞いて分かるようになった」「自分の考えが認められた」と感じることであれば、それは次の学びに向かう意志につながっていきます。私たちが目指しているのは、子どもを変えることなく、子どもが本来もっている意志を、学びに向けて発揮できるよう、教師自身が関わり方や授業の展開、環境づくりを工夫していくことです。

3. 研究の重点—「つなぐ学び」と子どもの実態

本校で継続して、「学びに自分の意志をもつ」ことに着目してきたことで、緑丘小の子どもたちの姿から、強みや課題が見えてきました。

緑丘小の子どもたちの強み
「人の役に立ちたい」という
社会貢献意欲（94%超）

札幌市教育委員会から発出されている「学習などに関するアンケート」の分析からも緑丘小の子どもたちの学習における強固な土台となっていることが分かります。

その一方で、自己表現へのためらいなど、次のような課題を抱えていることが見えてきます。

緑丘小の子どもたちの課題

- 「解決に向けて方法などの見通しをもって、活動すること、また、そこから考えたことなどを自分から発信すること」
- 「友達の意見を参考にして、自分の学習に生かそうとすること」

17	自分の目標をもって生活している。	83.3%	「解決に向けて方法など見通しをもって、活動すること」に関係する項目（特に、No.20 に関しては近年減少傾向にある。）
19	自分で計画を立てて勉強している。	76.5%	
20	疑問や課題を解決するために、 <u>自分で方法を考えるようにしている。</u>	80.8%	
22	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	88.7%	
6	自分が思っていることや感じていることを人に <u>伝えている。</u>	75.1%	「考えたことなどを自分から発信すること」に関係する項目
7	自分の意見を <u>進んで発言しようとしている。</u>	71.8%	

「友達の意見を参考にして、自分の学習に生かそうとすること」に関係する項目	11	新しく学んだことを、 <u>他の学習や生活の場面で使おうとしている。</u>	81.6%
	16	振り返ったことを、 <u>次に生かそうとしている。</u>	82.3%

「学習などについてのアンケート」（令和6年度実施）より抜粋

だからこそ、今年度の研究では、意志を「もつ」だけではなく、様々な場面で発揮された意志をもち続けることが重要だと考え、

研究の重点 「つなぐ学び」

を設定しました。

現行の学習指導要領が施行され、主体的・対話的で深い学びが重視される中で、「つなぐ」ことを意識した学びの重要性は以前から示されてきました。しかし、本校では、子ども自身が「つなぐ」よさを実感できることこそが、学びへの意志を発揮し、持続させる原動力になると考えています。

本校の「つなぐ学び」とは、知識同士が結び付くことだけではありません。

「前にも似たことを考えた。」「あの時の考え方が使える。」「友達の考えを聞いて、自分の考えが広がった。」というように、子ども自身が、学びがつながっていることを自覚することを意味しています。

子どもが、「学びはつながっている」「友達と学ぶことには意味がある」と感じることができれば、次の学びへの期待感が生まれ、「もっとやってみたい」「次はこうしたい」という意志へとつながっていくのではないのでしょうか。

ここで、「つなぐ学び」について、具体的な事例で考えてみます。

6年理科「水溶液の性質とはたらき」の学習の際に、水溶液に溶けているものが何かを明らかにしたいと考えた子どもが、「出てきた白い粉を顕微鏡で見れば、溶けていた物が何か分かる。」と言ってきたのです。

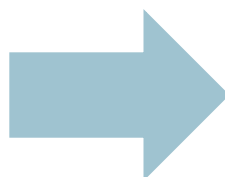
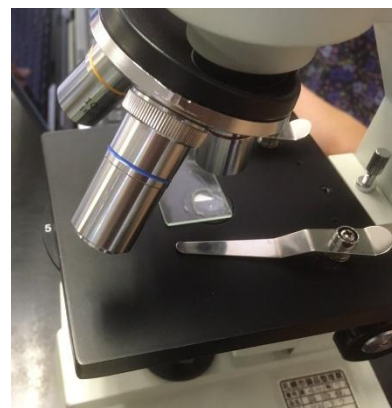
その子どもは、5年生の「物のとけ方」の学習の際に、顕微鏡で食塩やミョウバンの溶ける様子や析出した様子を観察した経験がある子どもでした。

過去の実践から

このことから、子どもは、5年生の理科の学習で、顕微鏡で観察して溶け方について明らかにした経験を、6年生の水溶液の学習につなげることで、学ぶ意志を強めたのではないかと考えました。

6 年理科

「水溶液の性質とはたらき」



5 年理科「物のとけ方」

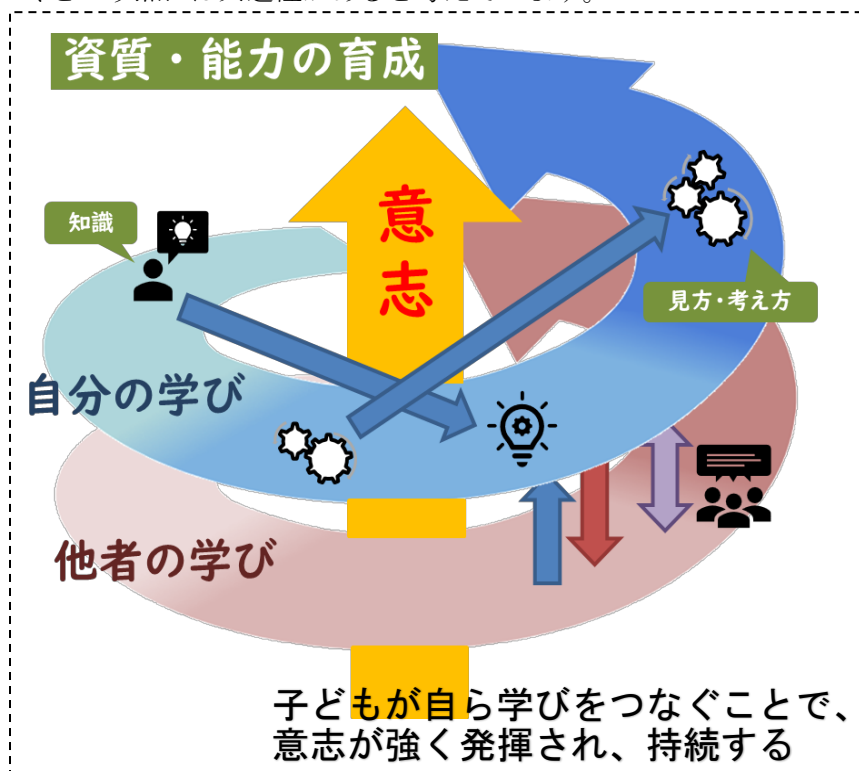
このような単元間や学年間でのつながりが感じられた事例は他の学習でも見られました。しかし、いずれも教師が意図的につながる構成にしていたのではありませんでした。もし、今回の研究で、意図的に子ども自らが学びをつなげられるようにできれば、子どもたちの意志が強く発揮され、持続するのではないかと考えました。

また、このような姿は理科だけではなく。

算数では、割合や図、式など、これまで学習した考え方を手掛かりにしながら新しい問題を解決しようとする姿があります。「前に使った図を使えば考えられそうだ。」と、自ら既習事項をつなげることは、新しい問題の解決への意志につながります。

国語では、友達の考えを聞くことで、「その言葉に注目したのか。」「自分の考えをもう少し変えてみたい。」と、自分の考えを更新していく姿があります。他者との対話を通して、自らの学びを広げていくことも、「つなぐ学び」の一つだと考えます。

このように、教科は違っても、子どもが学びをつなぐことで、学びへの意志が支えられていくという点には共通性があると考えています。



4. 2つの視点から見る「つなぐ学び」

では学習の中で、子どもは何をつなぐのでしょうか。
本研究では、「つなぐ学び」を2つの視点から具体化します。

視点1 自らの学びをつなぐ 視点2 他者の学びを 自らの学びにつなぐ 【自らの学びをつなぐ】

ここで大切にしたいのは、子どもが「この前のやり方が使える。」「この考え方でやってみよう。」と、自分の学びをつないでいく姿です。ここでいう学びには、いくつか意味があります。

◇見通し⇔行動⇔結果

つなぐ学びの1つとして、単元の見通しをもち、行動し、その結果を次の見通しにつなげるということが考えられます。これは、札幌市が課題探究的な学習を捉え直す視点として位置付けているAARサイクルとも関係の深いものだと考えています。

◇獲得した知識⇔様々な場面や生活経験

前時までの学習で獲得した知識や生活経験を活用して問題を解こうとしたり、本時で明らかにしたことを次の時間の学習、次の単元などにつなげようとしたりすることも、学びをつなぐ姿だと考えます。

◇学んだ学び方や働かせた見方・考え方⇔新たな課題

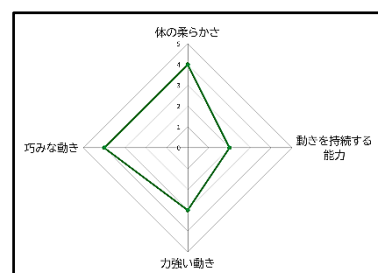
顕微鏡を使って追究した子どもの例のように、課題を解決した際に、学んだ解決の方法、いわゆる「学び方」を次の課題でも生かせないかとつなげることも学びをつなぐことになると思います。また、単元を通して見方・考え方を働かせることで、その経験が、次の単元につながり、同様に見方・考え方を働かせる姿として現れることもあるでしょう。

【他者の学びを自らの学びにつなぐ】

一昨年度の取組では、視点2を「自ら他者とつながる」としていました。しかし、実践を積み重ねる中で、交流の場を設定すること自体が目的化してしまい、「なぜ話し合うのか」「交流の先に何があるのか」という意識が十分ではなかったという反省がありました。そこで昨年度から、「他者の学びを自らの学びにつなぐ」と視点2を改め「なぜ話し合うのか」「何のために友達と考えを共有するのか」という目的をもったつながりを大事にしました。

他者がどの工夫の視点を取り入れようとしているのか可視化することで、自分と違う視点を取り入れている他者の学びもつなげられるようにした。

5年体育 「体づくり運動」



自分に合った課題を見つけるための、体力テストの数値を基にしたレーダーチャート。



工夫の視点と運動の効果の知識を運動の行い方の選択とつなげた。



終わりに

そして、今年度も大切にしたいことは、交流そのものではなく、他者との関わりを通して、自らの学びが更新されたり、広がったりすることです。

友達の考えを聞くことで、

「そんな考え方があったのか。」

「自分の考えと比べるとどうだろう。」

「その方法を取り入れてみたい。」

と、自分の学びに価値ある変容が生まれることが重要だと考えます。

そのためには、教師が単に「話し合しましょう。」と促すだけではなく、

・なぜ交流する必要があるのか。

・誰とつながると学びが深まるのか。

・交流によって何を得たいのか。

という必然性を、授業の中で位置付けていく必要があります。

子どもたちが、

「友達とつながると、こんな発見がある。」

「あの子の考えが、自分の考えを広げてくれた。」

という感覚をもつことができれば、対話や協働の価値を自覚し、それが新たな学びへの意志へとつながっていくのではないのでしょうか。

また、そのような経験の積み重ねは、自分の考えに自信をもつことや、自ら発信しようとする姿にもつながっていくと考えます。

5. 終わりに

—研究を深めるために教師自身が問いをもつ—

「学びに自分の意志をもつ子」の姿とは、具体的にどのような姿なのか。それは各教科において異なる表れ方をします。例えば、理科においては追究の仕方を変化させる姿として、社会科では、資料に浸り得た根拠を基にする姿として、国語では目的と相手意識をもち、既習や言葉を拠り所にする姿として、体育では解決に向けて自ら道筋をつけながら運動の行い方を工夫している姿として表れるのではないのでしょうか。重要なのは、教師自身が、それぞれの教科における「意志をもっている姿」を具体的に捉え、それがどのような資質・能力の育成とつながっているのかを理解し、見取ることです。

また、今年度の研究では、子どもが「学びがつながっていること」や「他者と学ぶ価値」を自覚できるようにするために、どのような手立てが有効なのかについても検証していきます。

本校の研究会では、子どもがどのようにつながりを見だし、どのような場面で意志を発揮し、また、持続させているのかという視点から、授業を御覧いただければ幸いです。

研究とは、単なる技術の研修ではなく、教師自身が問いをもちながら授業に向き合い、教科観や授業観を問い直していく営みだと捉えています。3年研究の最終年となる令和8年度は、これまで積み重ねてきた研究を整理しながら、「学びに自分の意志をもつ子の育成」の意味を改めて問い直し、研究を深めていきます。

意志をもって学ぶからこそ、育むことができる力や姿があると信じて、今年度も一步一步、研究を進めて参ります。

【参考文献】

- 白井俊著『OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来—エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房（2020）
- 田村学著『深い学び』東洋館出版社（2018）
- 田村学著『学習評価』東洋館出版社（2021）
- 鳴川 哲也/塚田 昭一編著『小学校理科と個別最適な学び・協働的な学び』明治図書出版（2024）
- 鹿毛 雅治/藤本 和久編著『「授業研究」を創る—教師が学びあう学校を実現するために—』教育出版（2017）



各部の主張と指導案

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

部で示した意志をもっている姿を基に、本単元全体で想定される意志をもっている子どもの姿を記述している。

政治単元では、国の政治の働きについて学ぶことで、国民主権を担う公民としての自覚を養うことをねらう。しかし、実際の子どもの社会参画意識は低い水準であり、当事者意識には課題がある。そのため、政治に対する興味・関心を育み、暮らしと政治とのつながりを実感し、人々の願いを達成するために、どのように政治を行っているのかについて自分事として追究するための証拠を集め、選択する姿が生まれると考えた。また、そのような意志をもっている姿を、単元を通して生むことが、社会の形成者として自ら判断し社会参画していくことにつながる。

本単元での意志をもっている姿を、「なぜそのように設定したのか」「なぜそのような姿を生むのか」について具体的に記述している。

【単元の目標】

札幌市の政治は、国民主権の考えの下、市民の様々な願いを実現し、生活の安定と向上を図る大切な役割をしていることを理解するとともに、子育てサロンの見学や聞き取り調査、市のホームページや広報誌等複数の資料から証拠を集めて読み取り、整理することができるようにする。

【知識及び技能】

・子育て支援に関する政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、札幌市の政治の取組を捉え、市民の様々な願いを実現するための働きについて証拠を基に追究し、表現することができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

・札幌市の子育てに関する政治の取組について、主体的に学習の問題を解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりするとともに、多角的な思考や理解を通して日本の将来を担う国民としての自覚をもつことができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

暮らしと政治のつながりが実感できる教材化

自らの学びをつなげられるようにするために、何をするのか（手立てとその意図）について記述している。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者につながる必然性を生む教師の関わり

他者の学びを自らの学びにつなげられるようにするために、何をするのか（手立てとその意図）について記述している。

【単元構成（8時間扱い）】

1～2時間目	3～4時間目	5～6時間目	7～8時間目（本時）
札幌市は子育てに関する人々の願いを実現するために、どのように政治を行っているのだろう？			
 <p>日本の人口は、少子高齢化が進んでいる。私たちの世代は、子育て支援策が充実している。札幌市は、子育て支援策を充実させている。子育て支援策を充実させるためには、どのような政策が必要なのか？</p>	<p>様々な施設で行われている子育てサロンって何だろう？</p> <p>子育てサロンには、週3日・3時間、0歳～就学前の子供と保護者が利用できる施設がある。</p>	<p>子育てサロンはどのようにして作られているのだろう？</p> <p>子育てサロンのお金はどこから？</p>	<p>児童会館にあるのに、どうして町内会の人たちも子育てサロンを開催しているの？</p> <p>子育てしやすい地域づくりを目指しているんだね。</p> <p>子育てサロンをよりよくしていきたいな。</p> <p>市民の子育てに対する願いを実現するためには、子育て支援策を充実させる必要がある。</p>
<div>単元の学習課題(題材設定)</div> <div>教師が提示する学習課題・発問</div> <div>問い</div> <div>子どもの思考</div> <div>問いの解決 (単元構成の1番下では単元の学習課題の解決)</div>			
<p>緑丘小や児童会館「ミラクル」、幼稚園・保育園など、自分たちの身近な施設も子育て支援の場所だ。</p> <p>子育てサロンは、0歳～就学前の子供と保護者やこれから親になる人などが交流したり、子育ての悩みを相談したりできる場所。親子でどのようなことをしているかも、見学調査をして分かったよ。</p> <p>市民の要望を市役所が受けて、それを基に計画・予算案を作成し、市議会で議決されると、市民の税金や国の補助金を使って実現していくよ。自分たちの暮らしと政治は深くつながっているね。</p> <p>市民の子育てに対する願いを実現するためには、札幌市と町内会がそれぞれの立場で、利用者の願いに合った子育てサロンになるようにしていく必要がある。</p> <p>せんきよ体験授業 自分の住む地域・町内会への関わり</p>			

単元の中で軸となる目標

網掛けや矢印などで、学びのつながりが見えるように表記している。

【本時の目標】

札幌市の子育てサロンの運営の仕方について追究する活動を通して、多様な市民の願いを実現するために札幌市や町内会が協力し、必要に応じて市や町内会が協力を求める働きについて表現することができるようにする。

意志をもっている子どもの本時の目標

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（8/8）

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
<p><前時まで></p> <p>前時までの子どもの活動と思考の流れについて</p>		
<p>子育て支援の拠点「子育てサロン」をよりよくするには？</p> <div data-bbox="103 678 999 824"> <div>札幌市 児童会館「ミラクル」 週3回いつも</div> <div>子育てしやすい地域に</div> <div>町内会 南円山会館・緑丘小 年6回程度</div> </div> <div data-bbox="103 835 544 947"> <p>開催場所が多い方が、どこに住んでいる人にとっても利用しやすい場所になるはずだ。</p> </div> <div data-bbox="544 835 999 947"> <p>開催日数が多い方が、日常的に活用することができて利用しやすい場所になるはずだ。</p> </div>		<p>2つの子育てサロンの問題点について考えを明確にできるように、前時までに学んできた開催場所と日程、利用者の願いなどの証拠を想起する。</p> <p>（視点1）</p>
<p>本時の問い</p> <div data-bbox="103 1081 544 1193"> <p>場所を増やすとなると、建設費が必要になるね。でもこれ以上支出は増やせないはずだよ。</p> </div> <div data-bbox="544 1081 999 1193"> <p>地域の子育てサロンだったら建設費や人件費を増やすことなく運営できるよ。</p> </div> <div data-bbox="103 1205 544 1283"> <p>運営に携わる保育士などの人件費も必要になってしまうよ。</p> </div> <div data-bbox="544 1205 999 1283"> <p>でもボランティアの担い手不足や高齢化が問題にあったよね。</p> </div> <div data-bbox="103 1294 544 1406"> <p>場所が増えると利用者が分散して、地域ネットワークとしての機能を失ってしまわないかな。</p> </div> <div data-bbox="544 1294 999 1406"> <p>児童会館の子育てサロンと違って運営費もほぼ無いから、運営できなくなるかな。</p> </div> <div data-bbox="103 1417 544 1529"> <p>日常的な居場所や保育士に相談したい人にとっては、児童会館の子育てサロンが必要だね。</p> </div> <div data-bbox="544 1417 999 1529"> <p>家の近所や地域住民とのつながりがほしい人にとっては地域の子育てサロンが必要だね。</p> </div> <div data-bbox="239 1552 861 1630"> <p>それぞれの立場で利用者のニーズに合わせて、開催場所と開催日数を補い合っているね。</p> </div>		<p>教師の意図や関わりについて記述している。</p> <p>視点1・2に関わる手立てのほか、教科的な手立ても記述している。</p> <p>ときには、同じ立場の人と考えを共有するよう促す。</p> <p>（視点2）</p>
<p>本時の問いの解決</p> <div data-bbox="103 1809 544 1966"> <p>児童会館の子育てサロンを続けていくために、将来税金を納めたり、自分の思いを実現してくれる人に投票したりしたいな。</p> </div> <div data-bbox="544 1809 999 1966"> <p>地域の子育てサロンを続けていくには地域住民が参加していくことが必要。自分も町内会の行事に参加してみようかな。</p> </div>		<p>子育てサロンを通して見える暮らしと政治とのつながりについて振り返る時間を担保することで、今の自分や将来の自分がどのように社会参画していくかという意識につなげられるようにする。</p> <p>（視点1）</p>

子どもの考えや活動が、前時までのどのような学びをつなげている姿なのか明確になるようなキーワードを、子どもの学習活動や時間帯と揃えて記述している。

【本時の評価】

札幌市の子育てサロンの運営の仕方について、多様な市民の願いを実現するために札幌市や町内会の

本時の目標に照らし合わせた際に評価する子どもの姿と評価方法

（行動観察・発言・ノート）



理科部会

部の主張
指導案

理科を通した意志をもっている姿

自然事象と関わり、様々な疑問から問題を見だし、自分事として追究し、発見の価値を自覚できるよう、分析解釈している姿

視点 1

自らの学びをつなぐ

【その姿に向かうために】

- 一人一人が多様な疑問をもち、そこから自分で解決したい問題を決めたと自覚できるようにするために、日常生活の中にある科学を取り上げるなど、自然事象が身近なものと感じられるような事象との出会いを設定すると共に、選択肢や自由度が生まれる単元構成や教材を選定する。
- 「もっと知りたい。」という思いが単元を通して持続するようにするために、仮説を立てる→考えを試す→うまくいく/いかない→伝達→もっと知りたい、というサイクルが実現できる教材の選定や単元の構成を行い、追究の機会を担保する。
- 一人一人がはっきりとした目的や根拠をもって追究し、次の活動を追加・修正して繰り返し追究できるようにするために、振り返りの際に、実験して得た自分なりの発見の価値や、「自分の生活や未来」とのつながりなど振り返りの視点を共有する。

視点 2

他者の学びを 自らの学びに つなぐ

【その姿に向かうために】

- 一人一人の疑問から、解決したいという問題を生み、見通しをもったり、分析、解釈したことを基に思考したりできるようにするために、様々な疑問や追究の視点、気づきを、ネームカードやICTなどを活用して可視化するとともに、その違いから子どもが「なぜ？」「どうしよう」と考えられる時間を意識的に設ける。
- 学び方への理解を深め、「実験結果が思った通りでなくても、新しいことを知るチャンス。」「失敗してもチャレンジしたことを称え、共有しよう。」と自他の追究を建設的に捉えようとする文化を育むために、複数の単元で、想定と違う結果からも思考し、共有しようとしている姿を見取り、失敗からも学ぼうとする姿勢を価値付ける。
- 自他の発見を「価値あるもの」と捉え、学びの深まりや自分の成長につながることを自覚し、次の追究に生かせるようにするために、一人一人の発見をためていくシートを活用し掲示するなど、他者の発見も加味したり、価値を捉え直したりできるような共有の場を設定する。

※下線は教師の手立てを示している。

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

自分の仮説を見直し他者と意見を交わして追究し、新たな発見を目指して再検証している姿

3 年生の理科学習において、活動に夢中になるあまり、仮説と結果にずれが出て気付かなかったり、他者の工夫に目が向かなかつたりして学びが深まらないことがある点が課題と感じている。そこで、身近に感じている磁石の捉えられていない事象との出会いから、自分の仮説を見直したり他者の発見を基に思考を調整したりして、磁石の気付いていなかった側面を発見する過程を重視する。磁石につくと考えた物がつかなくなったり、他者が自分と違う確かめ方をした際に結果が違ったりすることで、「どうしてだろう。」「他の確かめ方もやろう。」という思いが生まれるよう単元を構成した。そして、もう一度試したり、他者のやり方を取り入れたりする経験を重ねることで、仮説を見直し他者と意見を交わして追究し、新たな発見を目指して再検証する姿が生まれると考えた。そうした姿を生むことが、気付いていなかった側面の発見の楽しみながら探究の視野を広げることにつながる。

【単元の目標】

- ・磁石は鉄を引き付け、極や指北性があり、引き付けた鉄を磁石にする性質があることを理解し、試す物や確かめ方を見直しながら実験するなどの技能を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】
- ・磁石を様々な物につけたり、磁化した物の性質を明らかにしたりする活動の中で、自らの仮説を見直したり他者の発見を基に思考を調整したりしながら追究し、表現できるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・磁石の性質や磁石が及ぼす働きについての事象に進んで関わり、その中で生まれる他者との発見の違いについて共有したり、確かめ方を出し合ったりしながら問題解決できるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

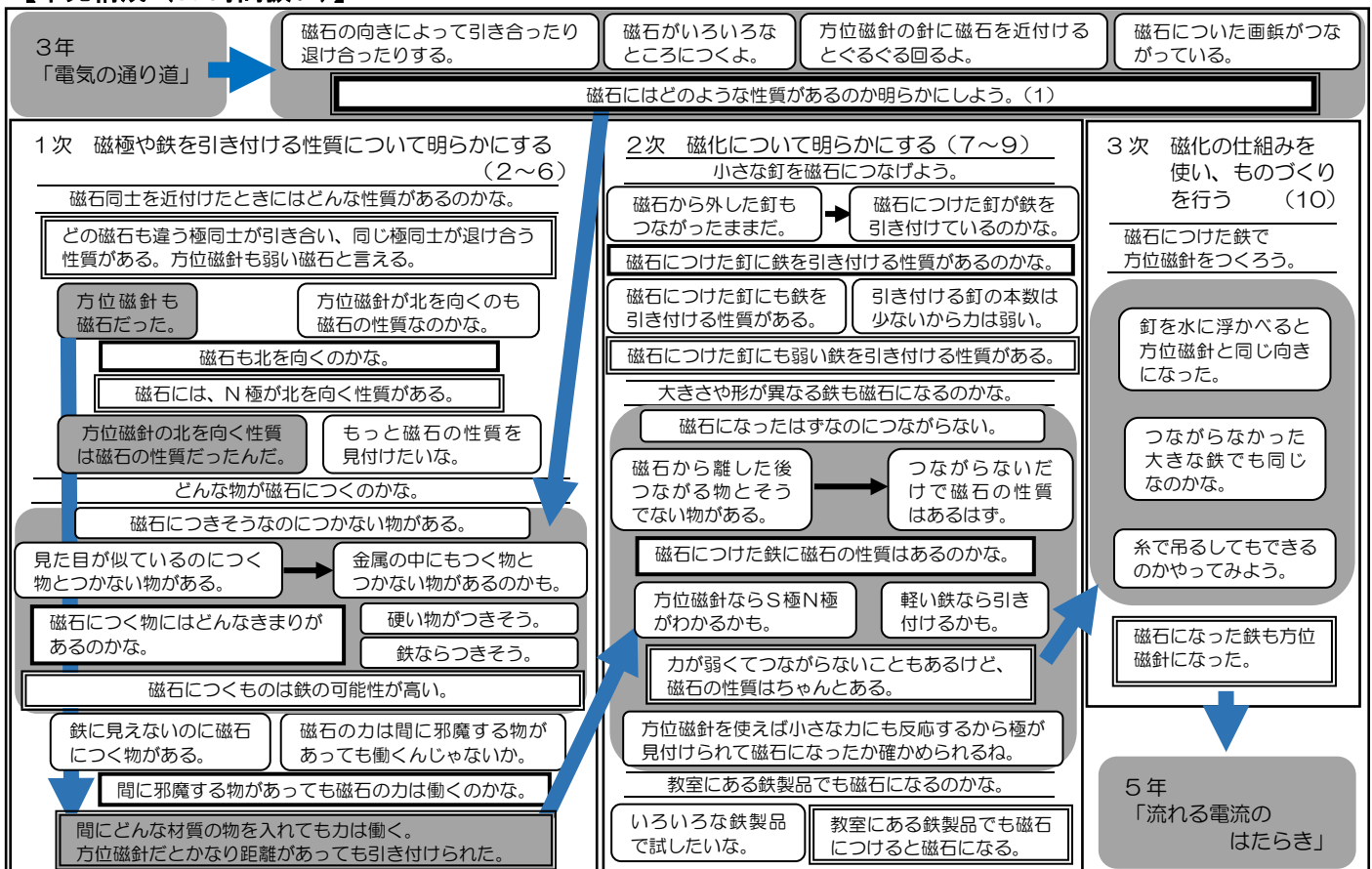
視点 1 自らの学びをつなぐ

見通しと違う結果から、もう一度試したくなる単元構成
追究の中で、子どもが仮説と結果を比較して、もう一度確かめたいようになるように、つくと考えた物がつかない、磁化しているはずなのに引き付けないというような意識の揺れや不確かさに直面する単元構成にする。その際、方位磁針を用いて再検証するなど、多様な比較対象や確かめ方を自分で決められるよう追加の実験道具や試す物を状況に応じて提示する。そうすることで、仮説と結果の相違を自ら見直し、再検証しながら新たな発見を目指して追究する姿を引き出していく。

視点 2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者の発見から、自分でも確かめてみたくなる学習環境
検証の結果やそこから考えられることを「発見」として共有できるように、付箋に書き班で集める共有ボードを提示する。更に、共有ボードに共有した発見について積極的に発信するよう促すことで、「なぜそう言えるのか。」「自分も確かめたい。」といった思いを生み、他者がどのように確かめたのか、発見からどう考えているのかなど意見を交わし再検証へ向かう姿を引き出せると考える。そうすることで、気付いていなかった側面の発見を楽しみ、探究の視野を広げることにつながる。

【単元構成（10 時間扱い）】



【本時の目標】

磁石にどのような物がつくのか調べる活動を通して、自分で立てた仮説や試す物、確かめ方を見直ししながら追究することで材質によってつく物とつかない物に分けられることに気付き、磁石には鉄だけがつくというきまりについて考え、表現することができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（5/10）

子どもの意識と活動		つながっている学び	教師の意図と関わり
<p><前時まで></p> <p>「磁石につく物にはどんなきまりがあるのかな。」という問題を見だし、「磁石につく物は〇〇説」と仮説を立てている。また、仮説を検証するために実験で試す物や確かめ方を決めて、見通しをもっている。</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">磁石につく物にはどんなきまりがあるのかな。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>材質に着目</p> <p>金属全部説</p> <p>全ての金属が磁石につきそう。</p> <p>金属とそうではない物を比べたい。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>鉄だけ説</p> <p>鉄だけが磁石につきそう。</p> <p>光っている金属とそうではない物を比べたい。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>銀色の物説</p> <p>銀色の物が磁石につきそう。</p> <p>銀色の金属とそうではない物を比べたい。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>光っている物説</p> <p>光っている物が磁石につきそう。</p> <p>光っている物とそうではない物を比べたい。</p> </div> </div>			
<p>○本時で明らかにしたいことや前時に立てた仮説を確かめ、活動の見通しをもってから実験を行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>クリップは色が関係なく磁石につく。</p> <p>銀色だけど、アルミ箔はつかない。</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>缶の中でもスチール缶は磁石につくけどアルミ缶は磁石につかない。</p> <p>はさみの持ち手も磁石についている。</p> </div> </div> <div style="display: grid; grid-template-columns: repeat(4, 1fr); gap: 5px;"> <div>鉄製の物は磁石についた。銅やアルミは磁石につかなかった。</div> <div>金属の中でも磁石につく物とつかない物がある。</div> <div>銀色の物の中でも磁石につく物とつかない物がある。</div> <div>光っている物も光っていない物も磁石についていた。</div> <div>鉄だけ説の可能性が高い。他の説の人はどうなっているのかな。</div> <div>金属全部説は違うのかな。鉄製の物をもっと調べよう。</div> <div>銀色の物説ではないのかも。金属同士で比べてみよう。</div> <div>光っているかどうかは関係ないんだ。材質が関係あるのかな。</div> </div> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">磁石につく物は鉄でできているのかも。別の物でも調べよう。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>見ただ目で磁石につく物を判断することはできない。磁石につく物は鉄の可能性が高い。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">鉄に見えないのに磁石につく物がある。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">見た目が鉄ではないのに磁石につく物の中に鉄があるのかな。</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">磁石の力は間に邪魔する物があっても働くんじゃないか。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">削ったら中に入っている物が分かりそう。</div> </div>		<p>電気の通り道における実験の流れ</p> <p>材質による結果の違い</p> <p>電気の通り道との比較</p> <p>前時までに様々な物に磁石を近付けた際の発見</p>	<p>色や材質に着目して多様な比較対象や確かめ方を自分で決められるよう、前時に立てた仮説を基に実験道具や試す物を提示する。（視点1）</p> <p>仮説を見直し再検証できるように、見た目が関係ないことや金属の中にも磁石につかない物があるという自分の仮説と結果の相違を明確にする。（視点1）</p> <p>他者と意見を交わし再検証へ向かう姿を生むために、発見したことの共有ボードでの共有、発信を促し、他者の発見を認識できるようにする。（視点2）</p> <p>材質が鉄であることは表面を見ただけでは判断できないことを明らかにして次時につなげるために、外側にあるコーティングを削って確かめようとしている子どもの考えを全体交流で取り上げる。</p>

【本時の評価】

どのような物が磁石につくのか明らかにする際に、自分で立てた仮説や試す物、確かめ方を見直して追究し、磁石には鉄だけがつくというきまりについて考え、表現している。

（行動観察/発言・記述分析）

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

自分の仮説を見直し他者と意見を交わして追究し、新たな発見を目指して再検証している姿

3年生の理科学習において、活動に夢中になるあまり、仮説と結果にずれが出て気付かなかったり、他者の工夫に目が向かなかつたりして学びが深まらないことがある点が課題と感じている。そこで、身近に感じている磁石の捉えられていない事象との出会いから、自分の仮説を見直したり他者の発見を基に思考を調整したりして、磁石の気付いていなかった側面を発見する過程を重視する。磁石につくと考えた物がつかなくなったり、他者が自分と違う確かめ方をした際に結果が違ったりすることで、「どうしてだろう。」「他の確かめ方もやろう。」という思いが生まれるよう単元を構成した。そして、もう一度試したり、他者のやり方を取り入れたりする経験を重ねることで、仮説を見直し他者と意見を交わして追究し、新たな発見を目指して再検証する姿が生まれると考えた。そうした姿を生むことが、気付いていなかった側面の発見の楽しみながら探究の視野を広げることにつながる。

【単元の目標】

- ・磁石は鉄を引き付け、極や指北性があり、引き付けた鉄を磁石にする性質があることを理解し、試す物や確かめ方を見直しながら実験するなどの技能を身に付けることができるようにする。【知識及び技能】
- ・磁石を様々な物につけたり、磁化した物の性質を明らかにしたりする活動の中で、自らの仮説を見直したり他者の発見を基に思考を調整したりしながら追究し、表現できるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・磁石の性質や磁石が及ぼす働きについての事象に進んで関わり、その中で生まれる他者との発見の違いについて共有したり、確かめ方を出し合ったりしながら問題解決できるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

見通しと違う結果から、もう一度試したくなる単元構成

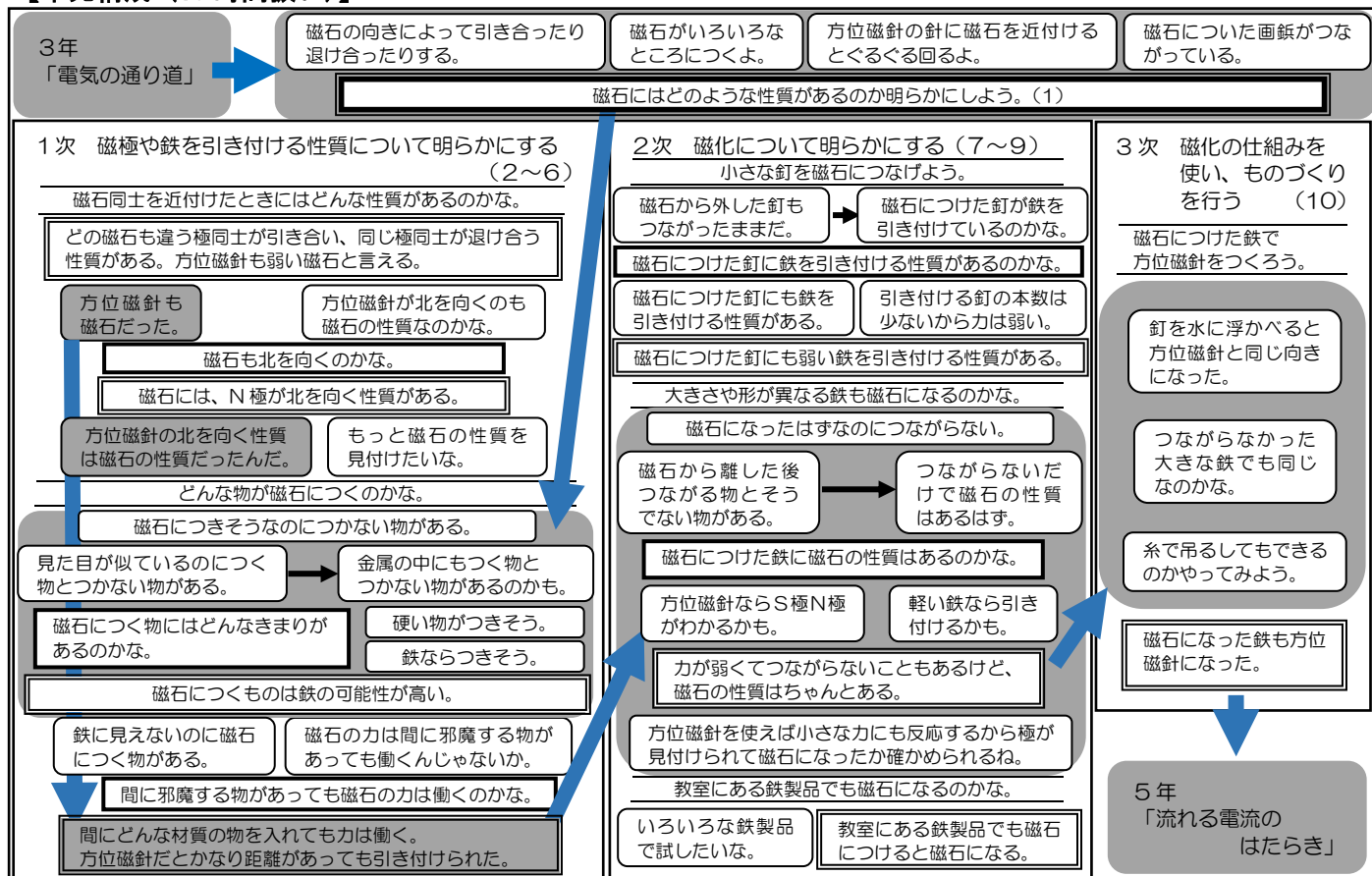
追究の中で、子どもが仮説と結果を比較して、もう一度確かめたいようになるように、つくと考えた物がつかない、磁化しているはずなのに引き付けないというような意識の揺れや不確かさに直面する単元構成にする。その際、方位磁針を用いて再検証するなど、多様な比較対象や確かめ方を自分で決められるよう追加の実験道具や試す物を状況に応じて提示する。そうすることで、仮説と結果の相違を自ら見直し、再検証しながら新たな発見を目指して追究する姿を引き出していく。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

他者の発見から、自分でも確かめてみたくなる学習環境

検証の結果やそこから考えられることを「発見」として共有できるように、付箋に書き班で集める共有ボードを提示する。更に、共有ボードに共有した発見について積極的に発信するよう促すことで、「なぜそう言えるのか。」「自分も確かめたい。」といった思いを生み、他者がどのように確かめたのか、発見からどう考えているのかなど意見を交わし再検証へ向かう姿を引き出せると考える。そうすることで、気付いていなかった側面の発見を楽しみ、探究の視野を広げることにつながる。

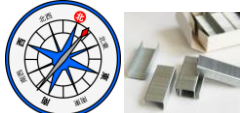
【単元構成（10時間扱い）】



【本時の目標】

磁石につけた様々な鉄について磁石から外した後の性質を確かめる活動を通して、自分の仮説と結果を基に、試す物や確かめ方を見直しながらかつて追究することで鉄が磁石の性質をもつことを発見し、働きは弱いがいしっかりと磁石の性質があると考え、表現することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】 (8/10)

子どもの意識と活動	つながっている学び	教師の意図と関わり
<p>＜前時まで＞</p> <p>磁石につながるようについた小さな釘が、磁石から外してもつき続ける事象から、釘が磁石になっているのかについて追究し、磁石についた釘には鉄を引き付ける性質があることを理解している。また、磁石になる物について、追究を広げ、大きさや形が異なる鉄が磁石になるのか明らかにしたいという見通しをもち、「大きさを変えたい。」「もっと複雑な形だったら。」と試す物や確かめ方について考えている。</p> <div> <div>もっと大きな釘や太い釘でも磁石になるのかな。</div> <div>クリップや画鋲のような、形が違う物でも磁石になるのかな。</div> </div>		
<p>大きさや形が異なる鉄も磁石になるのかな。</p> <div> <div>大きさは違っても細長い形状は同じだから磁石につけたら鉄を引き付けるはずだ。</div> <div>クリップがたくさん入ったケースに、棒磁石を入れたときにはつながっていた。</div> </div> <p>磁石になったはずなのににつながらない。他の物でもやってみよう。</p> <div> <div>磁石から離れた後、磁石になる物とそうでない物がある。</div> <div>  </div> <div>つながらないだけで磁石の性質はあるはず。</div> </div> <p>磁石につけた鉄に磁石の性質はあるのかな。</p> <div> <div>鉄の中でも磁石になる鉄とならない鉄があるのかもしれない。</div> <div>大きな鉄だと重すぎて、引き付ける力は伝わらないのかな。</div> </div> <div> <div>つながらなかった鉄も方位磁針を使えば、磁石になったか分かるかも。</div> <div>  </div> <div>少しでも伝わっているなら軽い鉄なら引き付けるかも。</div> </div> <div> <div>方位磁針の針が回ったよ。</div> <div>自分の釘では針が動かなかったけど、友達の釘では動いた。もう一度確かめたい。</div> <div>同じ物はつながらなかったけど、軽い鉄ならついた。</div> </div> <div> <div>つながらなかった鉄にも極があったから磁石になっていた。</div> <div>重い物はつながらなかったけど、軽い鉄はついたからやっぱり磁石になっている。</div> </div> <p>大きな鉄は重くてつながらないけど磁石の性質があった。</p> <p>力は弱いけど磁石としてちゃんと働いているんだ。</p> <p>力が弱くてつながらないこともあるけど、磁石の性質はちゃんとある。</p> <div> <div>方位磁針を使えばたくさんつなげなくても磁石になったか確かめられるね。</div> <div>教室にある鉄製品は何でも磁石になるってことかな。もっといろいろな物で試したいな。</div> </div>	<p>前時までに様々な物に磁石を近付けた経験</p> <p>磁石の性質</p> <p>発見したことの交流</p> <p>前時までに様々な物に磁石を近付けた経験</p>	<p>前時までの活動を想起し、本時で何を明らかにしたいのか見通しをもてるようにする。</p> <p>仮説と結果を比較して、もう一度確かめたいように、磁石になったはずなのに鉄を引き付けないことがあるという事実を明確にする。また、多様な確かめ方や比較対象を自分で決められるよう追加の実験道具や試す物を状況に応じて提示する。</p> <p>(視点1)</p> <p>他者と意見を交わし再検証へ向かう姿を生むために、発見したことの共有ボードでの共有、発信を促し、他者の発見を認識できるようにする。(視点2)</p> <p>本時で試せなかったことや自分の発見から次にやりたいことなど次時への見通しをもてるようにするために、振り返りの場を設定する。</p>

【本時の評価】

磁石につけた鉄について、仮説と結果を比較し、必要に応じて他者の考えも取り入れながら試す物や確かめ方を見直し、磁石につけた鉄に磁石の性質があると考え、表現している。(行動観察/発言・記述分析)

緑丘小 第24回教育実践研究会 助言者・協力者一覧

日 程	部 会	助言者	授業協力者
I 期 9月18日(金)	社会	石川 円 (山鼻小)	栗原 聡太郎 (芸術の森小)
	算数	小松 孝昭 (米里小)	三國 将広 (附属札幌小)
	図画工作	富波 修 (中央小)	菊地 惟史 (幌西小)
	体育	大牧 眞一 (北教大教授)	佐藤 圭一 (手稲鉄北小)
	外国語	岩村 鋭介 (藤野南小)	大原 拓幸 (もみじの森小)
	道徳	長野 文洋 (開成小)	北山 達大 (平岸西小)
II 期 11月6日(金)	国語	唐澤 俊樹 (幌西小)	松岡 佑 (附属札幌小)
	理科	古川 勉 (山の手南小)	坂下 哲哉 (附属札幌小)
	生活・総合	大宮 健一 (幌南小)	助川 陽一 (大谷地小)
	音楽	山田 健一 (伏見小)	数田 浩樹 (発寒南小)
	特別活動	鎌田 哲至 (新光小)	福本 勇太 (福移学園)
	特別支援	田中 進一 (山の手支援)	大塚 陽子 (手稲中央小)

【研究 同 人】

【校 長】	三戸部文彦		
【教 頭】	中島 大輔		
【国 語】	坂野由美子（6年）	羅津日向子（5年）	中島 幹太（5年）
【社 会】	谷川 充（4年）	奥泉 峻（5年）	平 侑真（3年）
【算 数】	三浦聡一郎（2年）	池野 翔太（1年）	佐野 楓河（4年）
	松村 倫宏（担任外）	間山ことみ（担任外）	
【理 科】	磯川 祐人（3年）	池田 拓樹（3年）	
【生活・総合】	森下 恭時（6年）	菅原 裕子（2年）	
【音 楽】	二木 愛花（1年）	工藤 壮生（2年）	喜井 調（主幹教諭）
【図 工】	北野信次郎（5年）	渡辺恵美子（1年）	
【体 育】	齋藤 未来（6年）	清橋隆之介（4年）	
	清水 美鳥（養護教諭）	高久はるな（養護教諭）	
【道 徳】	高橋 周（2年）	中野梨紗子（5年）	酒井 利来（4年）
	山内 聡子（教務主任）		
【外国語】	太田 麻子（専科）	和田 誉（4年）	
【特別活動】	黒田 健太（3年）	千葉 朋輝（6年）	
【特別支援】	木村 裕昭 石川 富美 森 達也		
	篠原 唯 岩井 千波 奥山 陽子		
【時間講師】	山根ひとみ		
【非常勤講師】	逸見 直和		
【事務職員】	相高 将吾 我妻 亜紀		
【栄養士】	吉川 雅代	【用務員】	大沼 伸
【校務助手】	幕田 美雪	【補助員】	三上 大輔
【学びのサポーター】	小平 治 阿波みどり 向井えい子		
【育児休暇】	花田 瑞希（教諭）	若林麻衣子（教諭）	
	勝谷ひなの（教諭）	加藤 葵（教諭）	

【転 出 同 人】

令和6年度

丸山 悠	加藤 美咲	前川 正大	佐々木美穂	渡部 厚	高橋 静香	小畑 曜子
杉浦恵利奈	狩野 量	仙北 明美	森下 美雪	中丸 修平	本間聖奈子	宿田 淳
木戸 優香	田中あやの	渡部みずき				

令和7年度

田中 義直	丹羽 洋彦	橋本萌々子	小島由紀子	道見佳奈枝	島田 周子	柿崎 健吾
青柳 大介	武田 若菜	大嶋 育美	川見 一弘	藤林 道治	佐藤 香代	下出千津留
長谷川優季	稲實 弘美	江川ひとみ	佐藤 亮輔	高本 泰子		